

矢田監物の足跡調査

2010.02.11

郷土史愛好会 山家

1. 系図と由緒書の入手

- 1) 郷土史愛好会の矢田義秀氏の叔父・矢田信夫氏(故人)が、旧国鉄で駅長在職中の昭和42年秋に、大阪・吹田市の鉄道教習所に出張の折、用務員の矢田喜美子氏(吹田市在住)から、『同姓のあなたは矢田監物をご存じですか、私は未裔で系図を所持しております』と話しかけられたのが縁で、系図と由緒書を入手された。
- 2) 矢田義秀氏は叔母からその事を聞き、早速資料の提供を受け、内容を確認したら平成8年に小山田地区市民センターの豊田早男館長に提出されていた。
- 3) 早速、由緒書に記載されていた矢田喜美子氏にハガキを出したが、宛先者不明で戻ってきた。
- 4) 系図と由緒書の内容には、講演会の内容と異なる事も多々あり、今後他の資料等を参考に、検証を続けていきたい。

2. 足利義晴との接点を求めて

- 1) 当地には、矢田監物の存在を示す言伝えや物証が、かなりの確率で残っているが、足利義晴との主従関係が証明されれば、より確かな史実として認められる。
- 2) そこで、1530年頃 安土町の実桑寺に近江仮幕府が開かれており、その資料が竜王町の東南寺に移されているとの情報(インターネット)により、現地の安土城考古博物館に問い合わせをした。(2009.9.8)
- 3) 地区観光協会・佐々さんより TEL があり、博物館・松下学芸員が対応してくれており、後日関連史料・山科言継記を調査していただき、仮幕府を訪問した時の記録には、矢田監物の名前は載っていないことが分かりました。(2009.9.15)
- 4) その後 インターネットで以下のものを調べた
(ア) 国立公文書館…デジタルアーカイブ・システム
(イ) 国立国会図書館(PORTA)…デジタルアーカイブ・ホータブル
(ウ) 東京大学史料編纂所…古文書フルテキストデータベース
上記・編纂所に同姓の山家教授がいたので、メールで問合せしている。
- 5) 9/30 現在 上記の返答はありません。

3. 義晴との接点を求めて(2)

- 1) 滋賀県安土町学芸員・松下氏の調査で、「言継卿記」に矢田監物の名前が記載されていない事がわかったが、その周辺を自分の目で確かめたいと思いインターネット検索や、県立図書館に通い以下の書籍について調査した。
- 2) 国立公文書館・デジタルアーカイブ・システム
「足利義晴」で検索…8件(別紙-1)
- 3) 東京大学史料編纂所・刊行物
「足利義晴」で検索…4件(別紙-2)
- 4) 古文書フルテキストデータベース
「足利義晴」で検索…67件(別紙-3)
- 5) 三重県図書館 総合目録システム
 - ①「言継卿記」で検索…3+3件(別紙-4)
 - ②戦国時代の貴族「言継卿記」が描く京都(コピー)
今谷 明著・講談社学術文庫
 - ③日本古文書学論集8巻中世 将軍足利義晴期における御前沙汰(コピー)
清水久夫著・吉川弘文館
- 6) 上記書籍の調査により、足利義晴幕府の奉行人集団の記録等を拾い読みし、監物の名前を探したが、記載されていないかを確認した。
改めて矢田監物は、それら公式の役職に名前が乗る地位でない事がわかった。
- 7) 今後は年令等からみて、当初は小姓等で側仕えしていたことも考えられるので、その方面の調査も進めていきたい。

4. 丹波生まれの人

- 1) 丹波市当局には、竹内住職が電話で問い合わせたら、不明であったと聞いていたが、インターネットで詳細に検索していたら、下記の支援グループが見つかった。
神戸大学・地域連携センター 丹波市史料担当 文学部特命講師・松下正和氏
- 2) そこで、メールで当方の現状を報告(時代考察メモ)し、ホームページに関連資料が掲載されていることを連絡した。
- 3) メール交信記録等は(別紙-5)のとおり

5. 県内の史料調査

- 1) 義晴との接点を求めて調査したが、監物の名前を見つけることができなかった。
そこで、戦国時代の北勢地区での史料より、監物の存在を再確認することにし、県立図書館に通って郷土史関連の調査を行った。
- 2) 長島町誌・上巻の中世の項に、当時の北勢地方の北勢五部四十八家の記事があり、三重国盗り物語・総集編(伊勢新聞)に北畠家臣録が引用されているのを見つけた。
一部に桑名の矢田氏との異論もあるが新たな資料であった。(別紙-6)
- 3) 次に勢陽五鈴遺響(江戸時代以前の伊勢国各地の歴史・地理を記す)に小山田村に監物の記載を見つけた。
- 4) また四日市市史・上巻にも、市域における土豪として山田城の矢田監物が記載されていたが、亀山市史や三重郡史には見つけることが出来なかった。